

目指せ!なのはな米1等比率95%以上!! ～「R3 JAなのはな米品質向上運動」実施中～

本年は、播種後の気温は概ね平年並みだったものの、降水量が多く（4月下旬～5月中旬：**平年比190%**）、ほ場が乾きにくかったこと等により、平年より苗立ちがやや遅くなりましたが、その後の生育は概ね順調で、すでに分けつが発生しているほ場も見られます。今後は、急激に分けつが増加する時期を迎えるため、特に苗立ちが多かったほ場では、過剰茎数が懸念されます。**早急に『溝掘り』を行うとともに、適期に『中干し』を開始**し、稲体および根の健全化を図りましょう。

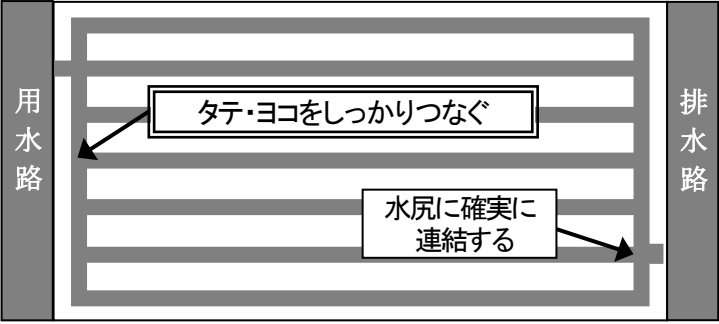
1 溝掘り・中干しの実施

（1）溝掘り・・・6月上旬までに設置！

水管理をスムーズにし、中干しを効果的に行うため、『中干し』に入る前に、**必ず『溝掘り』を行いましょう**（下図参照）。なお、播種と同時に溝切りを行っている場合でも、再度『溝掘り』を行いましょう。

◎溝掘りの目安

15～17条に1本の割合で設置



鉄コーティング直播では、根の露出が多いと倒伏の原因となります。**強めの中干し**で根の土中への貫入を促しましょう。

（2）中干し・・・6月上旬～中旬に開始

中干しは、1m間の茎数が100本程度になる頃から遅れずに開始しましょう。なお、極端に強い中干しは、穂数不足につながりやすいので、避けましょう。

※中干し後は幼穂形成期まで、**間断かん水**を行いましょう。

2 病虫害防除の徹底

（1）いもち病対策：予防粒剤は、**6月中旬頃までに散布**しましょう。

薬剤名	10a 当たり使用量	使用上の注意
オリゼメート1キロ粒剤	1kg	散布後4～5日程度は「湛水状態」を保ち、7日間は落水や掛け流しをしない。

※ルーチンFSの種子塗抹処理、箱施薬剤の播種時土中処理を行っている場合は不要です。

（2）害虫対策：斑点米の原因となるカメムシ類の繁殖を抑えるため、畦畔や雑草地の草刈りを徹底しましょう。

3 雑草防除（後期除草剤）

雑草が残っているほ場では、雑草の種類に応じて後期剤を適期に散布しましょう。

雑草種類	使用除草剤	10a当り使用量	使用時期	使用回数	使用上の注意
ノビエのみ	クリンチャー1キロ粒剤	1.5kg	播種後25日～ノビエ4葉期まで（収穫30日前まで）	2回以内	湛水状態で散布し、散布後5日間は湛水を保つ。
ノビエと広葉雑草	サンパンチ1キロ粒剤	1kg	イネ3葉期～ノビエ3葉期まで（収穫60日前まで）	1回	湛水状態で散布し、散布後5日間は湛水を保つ。
	ワイドアタックD1キロ粒剤	1kg	イネ3葉期～ノビエ4.5葉期まで（収穫60日前まで）	1回	湛水状態で散布し、散布後5日間は湛水を保つ。
	シアゲMF1キロ粒剤	1kg	イネ3.5葉期～ノビエ4葉期まで（収穫60日前まで）	1回	湛水状態で散布し、散布後5日間は湛水を保つ。
	アトカラSジャンボMX	500g（小包装20個分）	イネ4葉期～ノビエ3葉期まで（収穫45日前まで）	1回	5cm以上の深水状態で散布し、散布後5日間は湛水を保つ。藻類や表層はく離が多発しているほ場では、使用を避ける。
	クリンチャーバスME液剤	1000ml（希釈水量70～100ℓ）	播種後10日～ノビエ5葉期まで（収穫50日前まで）	2回以内	晴天日を選び、落水状態で雑草茎葉部に薬剤が付着するように散布する。また、3～4日間は入水、落水しない。
広葉雑草のみ	バサグラン粒剤	3kg	イネ3葉期～入水50日後まで（収穫60日前まで）	1回	落水または雑草が露出する程度の浅水状態で、晴天日を選んで散布し、散布後3～4日間は入水・落水しない。
	バサグラン液剤	500～700ml（希釈水量70～100ℓ）	播種後35～50日（収穫50日前まで）	2回以内	落水または雑草が露出する程度の浅水状態で、晴天日を選んで散布し、散布後3～4日間は入水・落水しない。

- ※「直播水稻」で登録のある除草剤を使い、決められた使用回数や散布量を守る等、使用基準を遵守しましょう。
- ※ 除草剤散布後7日間は止め水管理（田面水が用排水路に流れ出ないよう管理）とし、河川等の環境を守りましょう。
- ※ 藻や表層はく離が発生しているほ場では、水の入れ換えや軽い田干しを行いましょう。

農作業の際は、適切な水分・塩分補給やこまめな休憩など、熱中症対策を徹底しましょう！